

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-142	24-065	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Age- and sex-standardized prevalence of alcohol consumption and its determinants in the western region of Iran, Ilam: a cross-sectional study イラン西部の性年齢調整アルコール摂取率とその規定要因		
執筆者		
Sarmad A, Ahmadzadeh D, Baziyar M, Malekan K, Malekan Z, Pakzad R.		
掲載誌		
BMC Public Health. 2024 Dec 18;24(1):3430. doi: 10.1186/s12889-024-21087-3.		
キーワード	PMID	
アルコール摂取、飲酒率、イラン、横断研究	39696137	
要 旨		
<p>目的：イラン西部の一般地域住民における 2021-2022 年の性年齢調整アルコール摂取率とその規定要因を明らかにする。</p> <p>方法：イラン西部に位置するイラム市で多段サンプリングした 15 歳以上の一般地域住民 1431 人を対象に、ペルシア版の危険行動質問票を用いてアルコール摂取を評価した。ロジスティック回帰分析を用いて多変量調整オッズ比と 95%信頼区間(OR(95%CI))を算出した。</p> <p>結果：1431 人の対象者が質問票に回答した。平均年齢は 43.40±15.51 歳であった。性年齢調整アルコール摂取率は 4.05 (95%信頼区間 3.09-5.20) %であった。ロジスティック回帰分析の結果、学士 (OR(95%CI);7.13(1.89-26.76))、タバコ (OR(95%CI);6.92(2.94-16.29))、水タバコ (OR(95%CI);7.34(3.09-17.47))、薬物依存(OR(95%CI);2.88(1.38-5.99))がアルコール摂取と正の関連を認めた。一方、高い経済的地位はアルコール摂取と負の関連を示した (OR(95%CI);0.62(0.26-1.48))。標準化係数の値から水タバコ (標準化係数 0.743) と高学歴 (標準化係数 0.703)、タバコ (標準化係数 0.588) (がアルコール摂取の最も強い規定要因であった。</p> <p>結論：イラン西部の一般地域住民における性年齢調整アルコール摂取率は 4.05%であり、最も強い規定要因は、水タバコ、タバコ、高学歴であった。アルコールについて教育、啓発、政策な等の複合的対策が必要である。</p>		